

BB11 021

授業科目	現代社会論 (Modern Society)		
担当教員	野上元	研究室	人社A412
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜日15:30～16:00
学期曜時限	1学期 木3・4時限	授業対象学生	1・2年次
授業の目標と概要・学生への要望			
<p>実例と理論的枠組みとをバランス良く紹介しながら、現代社会の諸事象・諸問題に対する社会学的視点の獲得を目標として講義を行う。いくつかのテーマに沿って現代社会の「起源」について論じたあと、現代社会の諸問題に挑戦している社会学的研究の実例をいくつか紹介・解説する。</p>			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等			
<p>< 進行予定 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション - 社会学的記述と社会政策 2. 現代社会の「起源」 - 「近代」そして「現代」とはいかなる時代か？ 3. 現代社会の社会学的把握 <p>< 授業の方針・履修にあたっての各自の学習法 ></p> <p>講義の前半では、「現代」「現在」を相対化し、認識の対象として浮き上がらせる方法を学ぶ。後半では、具体的な社会現象や社会問題の認識や解決に社会学がどのように役立つ（/立たない）かを解説する。とはいえ、講義内で触れられるのはほんのさわりの部分までであり、配布された関連文献リストをもとに各自で勉強すること。</p> <p>< 参考文献 ></p> <p>・高根正昭『創造の方法学』講談社新書 ・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣 など</p>			
単位取得要件			
備考	社会・国際学群コア・カリキュラム 社会教育主事 比文(AC33 141)国際(BC11 801)と共通		

BB11 161

授業科目	家族社会学 (Sociology of Family)		
担当教員	樽川典子	研究室	人社A407
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜日 6時限
学期曜時限	1学期 木4・5時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望			
<p>家族に関連する諸制度である家族政策には、社会が想定する「望ましい家族」がよく示されている一方で、現実の家族実態とは必ずしも一致しない。家族政策の主なトピックスをとりあげて、現代社会における家族についてを考える。</p>			
授業の進行予定・授業以外の予習・復習方法・教材等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 家族への介入とケアの私事化 < 2つの家族型 > 3. 博覧会の家族像：私領域の浮上 4. 生活保護：世帯単位と「家」制度 5. 「標準家族」：経済成長期の制度設計 < 親子の家族政策 > 6. 老いと病：扶養と自立の相剋 7. 児童福祉のパラドックス：子育て支援と児童虐待防止法 8. 家族の影に存在する：格差社会と子どもの貧困 < 個人・家族・社会 > 9. シングル化・少子化社会における家族 10. おわりに <p>参考文献は、初回の授業及び各回の授業で配布する。これらで予習復習をしてほしい。</p>			
単位取得要件	レポートによる		
備考	看護(HC22 161)と共通		

BB11 501

授業科目	移民とエスニシティの社会学 (Sociology on Migration and Ethnicity)		
担当教員	五十嵐 泰 正	研究室	人社棟A408
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜5限(メールで要予約)
学期曜時限	1学期 金2・3時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望 隣人としてのエスニック・マイノリティの置かれている諸状況を検討し、従来の定住と単一文化を前提とした社会認識と制度設計をどのように再考しなければならないのか、日本における事例を中心に考える。グローバルな国際移動の激化によって、否応なく多文化化する社会に暮らしている個々の学生が、自分自身の生活や仕事に影響を及ぼす事態として、この問題を的確に把握してゆくことを目指す。			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等 以下の諸領域それぞれにつき各1～2週ずつ、映像視聴などを交えながら検討する。 1 イントロダクション 2 ジェンダー、家族とセクシュアリティ 3 産業構造と労働環境 4 文化とアイデンティティ 5 グローバル・ネットワーク 6 「不法就労」の表象と経験 7 階層 - 人種編制の変容とレイシズム、ナショナリズム 教科書は特に指定せず、配布するシラバスに沿って授業は進行するが、授業内で紹介する参考文献にできる限り触れてみるようにしてほしい。また、住んでいる地域やアルバイト先、大学への行き帰りの中での外国人の姿に注意を払い、関連するニュース報道や新聞記事にも敏感になることを期待する。			
単位取得要件	4000字程度の期末レポート。授業内小課題への取り組みを加点評価する場合がある。		
備考			

BB11 181

授業科目	組織社会学 (Sociology of Organization)		
担当教員	奥 山 敏 雄	研究室	人文社会学系棟A410
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜4時限
学期曜時限	1学期 火4・5時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望 近代的な組織原理をマクロな社会構造と関連づけて考察し、巨大組織が発展した20世紀の意味について理解するとともに、新たな組織の仕組みが模索される現在について考える。			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等 おおよそ以下のサブテーマについて授業を行う ・組織とは何か ・近代的組織原理とは何か ・近代社会の機能的分化と近代的組織原理 ・産業社会の変容と多様な組織観 ・組織と人間 テキストは使用しない 参考文献は授業中で適宜情報提供する 予習は必要ないが、理解を深めるためには参考文献を読む必要がある			
単位取得要件	期末試験による。		
備考	組織社会学 の単位取得済みの者は履修できないので要注意！		

BB11 281

授業科目	犯罪社会学 (Sociological Criminology)		
担当教員	土井隆義	研究室	人社A411
単位数	2単位	オフィスアワー	とくに定めません。
学期曜時限	2学期 火4・5時限	授業対象学生	2～4年次
<p>授業の目標と概要・学生への要望</p> <p>犯罪社会学の基礎理論を応用しながら、現代の日本における少年犯罪の動向と、その社会的背景について社会的に考察していきます。授業中に、それぞれのトピックについて学習の参考になるとと思われる文献を紹介しますので、できるだけ自分で読むように心がけてください。</p>			
<p>授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等</p> <p>第1回：少年犯罪の凶悪化という神話(1) - 犯罪統計の信頼性の問題 - 第2回：少年犯罪の凶悪化という神話(2) - 犯罪統計の妥当性の問題 - 第3回：現代の少年犯罪の質的特徴(1) - 崩壊してきた逸脱キャリア - 第4回：現代の少年犯罪の質的特徴(2) - ピアグループの構成原理の変質 - 第5回：現代の少年たちの社会的性格(1) - 自己の断片化と感覚の共同性 - 第6回：現代の少年たちの社会的性格(2) - 熱い犯罪から冷たい犯罪へ - 第7回：親密性をめぐる新たな展開(1) - 親密圏の重さ、公共圏の軽さ - 第8回：親密性をめぐる新たな展開(2) - つながりに強迫された日常性 - 第9回：個性的な自分への強迫的衝動(1) - 自分らしさへの過剰なこだわり - 第10回：個性的な自分への強迫的衝動(2) - 現代のエゴイズムとアノミー -</p>			
単位取得要件	学期末の論述試験によって評価します。		
備考			

BB11 341

授業科目	差別の社会学 (Sociology of discrimination)		
担当教員	好井裕明	研究室	人社A414
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1・2学期 火3時限	授業対象学生	2～4年次
<p>授業の目標と概要・学生への要望</p> <p>社会学的な現象の根底に流れるものとして、差別や排除をとらえ、いかにしてそれらを把握し解読することができるのかをめぐり講義する。部落差別問題、障害者差別、性差別、セクシュアルマイノリティの問題、ヒロシマ・ナガサキの被爆問題、外国人差別問題など、個別のテーマを順次とりあげる予定。またドキュメンタリーなど映像も積極的に活用する予定。</p>			
<p>授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等</p> <p>従来の硬直した「差別 被差別」という二分法的な図式から、差別的日常を生きる存在としての〈わたし〉、差別する可能性を、生きていく手がかりとしていかに“活用”し得るのかという、代替的な差別をめぐる考え方を提示し、説明したのち、部落差別問題、障害者差別問題、性差別、セクシュアルマイノリティの問題、外国人差別、ヒロシマ・ナガサキの被爆問題などを順次取り上げ、講義していく予定。関連するドキュメンタリーなどの映像を積極的に活用する予定。関連文献は講義時、適宜紹介する。</p> <p>テキスト：好井裕明編『排除と差別の社会学』(有斐閣選書)、2009年。 好井裕明『差別原論—〈わたし〉のなかの権力とつきあう』(平凡社新書)、2007年。</p>			
単位取得要件	1学期・2学期の学期末レポートの提出が必須要件。		
備考	社会学類以外の学生については、受講者の制限を行うことがある。		

BB11 511

授業科目	筑波山ルネッサンス - 地域社会と大学 - (Community Governance)		
担当教員	樽 川 典 子	研究室	人社A407
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1・2学期 水6時限	授業対象学生	2・3年次
<p>授業の目標と概要・学生への要望</p> <p>科学都市<つくば>は、1000年の歴史をもつまち<筑波>でもある。本学では、<筑波>の固有性を再発見し保持する取り組み「筑波山ルネッサンス・プロジェクト」を立ち上げている。その成果にもとづきつつ、筑波山および山麓の歴史と文化、地域づくり、大学と地域の関係について、実践的な学習をめざす。筑波大学と地域の関係に関心を深めることを期待する。</p>			
<p>授業の進行予定・授業以外の予習復習方法・教材等</p> <p>【1学期】 筑波山麓地域について、以下のような点から考える。あわせて、現地研修をおこなう。 地域づくりの試み、古道修景、開発、歴史、宗教、芸能、産業、</p> <p>【2学期】 現地研修 「筑波山麓秋祭り」への参加 参考文献は、初回の授業及び各回の授業で配布する。これらで予習復習をしてほしい。</p>			
単位取得要件	現地研修への参加とレポートによる		
備考			

BB11 823

授業科目	社会調査実習 (Sociological Survey)		
担当教員	五十嵐 泰 正	研究室	人社棟A408
単位数	6単位	オフィスアワー	月曜5限(メールで要予約)
学期曜時限	1～3学期 金5・6時限	授業対象学生	2～4年次
<p>授業の目標と概要・学生への要望</p> <p>労働や雇用をめぐる環境の悪化と外国人労働者の導入が同時に進む現代日本のさまざまな職場において、現実にはどのような外国人との「協働」が行われ、日本人労働者の間にどのような「他者」への意識が形成されているのか、実証的に調査する。また、上記の調査を通じて、社会調査法の基本的な方法論を修得する。</p>			
<p>授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等</p> <p>1学期:日本のさまざまな労働領域への外国人導入に関する資料や先行研究を輪読し、本調査に関する基本的な問題意識を共有・ブラッシュアップする。また、問題意識から作業仮説を策定し、それを実際の質問紙やインタビュー項目に落とし込む方法論を学習する。 夏休み～2学期:製造、介護、サービス、農漁業、専門職など対象となる労働領域ごとにいくつかの班に分かれ、実際にその職場で働いてみる参与観察も含めた調査を進める。 3学期:各班の調査結果・分析を持ち寄って議論し、ゼミ報告書をまとめる。 上記の調査計画を実施すると、それなりの作業量と密度になる。週末や長期休暇中などに、聞き取りや打ち合わせなどを行う場合も出てくるが、積極的かつ主体的に動いて多くのものを吸収して欲しい。社会調査法の学習に関しては、小林修一ほか編著『テキスト社会調査』(梓出版社、2005)を参照しながら進める。</p>			
単位取得要件	ゼミ報告書の作成、インタビュー調査/質問紙調査/参与観察への積極的な貢献		
備考	フィールド調査を、休日等に行う場合もある。また、「移民とエスニシティの社会学」をあわせて履修することが望ましい。		

BB11 822

授業科目	社会学演習 (Seminar on Sociology)		
担当教員	奥山敏雄	研究室	人文社会学系棟A410
単位数	3単位	オフィスアワー	木曜4時限
学期曜時限	1～3学期 木3時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望			
人間は、自らに死がおとずれ生が有限であることを知りながら生きるが、その生のあり方は時代や社会によって異なる。現代のわれわれの生の特異性について考える。			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等			
<p>自らの死が意識にのぼるとき、現代では、生きるために何かを語ったり、何かを為したりすることによって、その都度の生の意味をなんとか作り出すことが試みられる。このこと自体は、もちろん非難されるべきことではないが、何かを語ったり、何かを為したりすることによってかえって視界が塞がれるとは考えられないだろうか。もはや自己を語りえないとき、何も為しえないとき、人はどのように生きるのか。個々の語りや行為という形で作り出される意味とは別の水準で、生の全体性に関わる意味が求められるのではないか。このようなことについて考えたい。</p> <p>1学期から2学期の途中までは、自己物語、スピリチュアリティ、共同性などに関する文献の輪読を中心に行う。夏休みに、1学期に輪読した文献と関連づけて自分の問題関心に沿ってレポートを作成し、2学期後半からその報告と討論を行い、さらに完成度を高め3学期末にゼミ論文という形に仕上げる。輪読するテキストは、開講時に指示する。</p>			
単位取得要件	出席、ゼミでの討論、レポート、ゼミ論を総合評価する。		
備考			

BB11 862

授業科目	社会学演習 (Seminar on Sociology VI)		
担当教員	樽川典子	研究室	人社A407
単位数	3単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1～3学期 木6時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望			
<p>ホックシールド著『管理される心』を輪読する。感情管理は、対人サービスの場面でしばしばマニュアル化されており、現代の労働、家族などの人間関係で感情を表出することが、自然な営みではなく社会的なものであることを理解する。あわせて、具体的な事象を分析する能力を習得する。</p>			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等			
<p>【1学期】 上記の文献を輪読して感情管理に関する接近法を理解する。 1. はじめに 2. レジユメの作成 3～9 テキストの輪読</p> <p>【2学期】 関連文献をとりあげ、具体的に設定しうるテーマの可能性を検討する。</p> <p>【3学期】 各自の関心に即して課題を設定してその報告・討論、ゼミ論の執筆をおこなう。</p> <p>演習では、テキスト報告、討論、ゼミ論文構想報告などの積極的な参加が望まれる。</p>			
単位取得要件	ゼミでの報告及びゼミ論文の執筆による		
備考			

BB11 872

授業科目	社会学演習 (Seminar on Sociology VII)		
担当教員	土井隆義	研究室	人社A411
単位数	3単位	オフィスアワー	とくに定めません。
学期曜時限	1～3学期 火6時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望 現代社会におけるアイデンティティ問題とその社会的背景について社会的に検討します。 使用テキストには必ず目を通し、ディスカッションに積極的に参加してください。			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等 ・授業内容: 学期ごとに次の要領で授業を行ないます。 第1学期.....演習に参加する学生全員で共通の文献を輪読していきます。報告を担当する箇所をあらかじめ配分しておき、毎回、担当者が報告を行なった後、その内容について全員でディスカッションを行ないます。 第2学期.....現代社会のアイデンティティ問題を考える上で、学生各自が関心のあるテーマについて基本的な文献を一つ取り上げて、その文献の概要と自分の意見を報告します。その後、報告された内容と意見について全員で討議を行ないます。 第3学期.....現代社会のアイデンティティをめぐる問題群の中から、学生各自が関心のあるトピックを一つ設定して、そのテーマの下で自分の考察を進めて報告にまとめます。各回とも、担当者が自らの研究成果を報告した後、その内容について、全員で討議を行ないます。 ・使用テキスト: 第1学期に使用する共通文献は、以下のとおりです。 アンディファールロング、フレッドカートメル『若者と社会変容 リスク社会を生きる』(大月書店, 2009年)			
単位取得要件	授業への参加度とゼミ論文の完成度から総合的に評価します。		
備考			

BB11 882

授業科目	社会学演習 (Seminar on Sociology VIII)		
担当教員	好井裕明	研究室	人社A414
単位数	3単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1～3学期 火2時限	授業対象学生	2～4年次
授業の目標と概要・学生への要望 今年度は、ヒロシマ、ナガサキの被爆問題をめぐる映像の解読を行う。まず演習参加者とともに被爆問題をめぐり自由討議する。その後被爆問題の関連文献を読む。一定問題に対する基本的事実などを確認したうえで、各自の関心にもとづき、被爆映画やドキュメンタリーを決め、各自が詳細に解読し、報告し、討議する。被爆問題に関心がある学生が受講することを望みます。			
授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等 被爆問題をめぐる自由討議。各自の問題への姿勢や関心の鮮明化。被爆問題関連文献の輪読。各自の関心にもとづく被爆映画・ドキュメンタリー作品の割り当て。割り当てられた作品の詳細なる解読、報告、討議。ゼミ論文の執筆。関連文献の指示や映画やドキュメンタリー作品の提示は適宜行う予定。			
単位取得要件	ゼミ論文(12000～16000字)の執筆と演習への日常的な真摯なる参加が要件。		
備考	参加希望人数により受講者の制限を行うことがある。		

BB11 982

授業科目	社会学外書講読 (Reading on Sociology (English))		
担当教員	五十嵐 泰 正	研究室	人社棟A408
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜5限(メールで要予約)
学期曜時限	2・3学期 金3時限	授業対象学生	2・3年次
<p>授業の目標と概要・学生への要望</p> <p>人種問題やレイシズムに関する代表的な英語文献を輪読し、当該分野における欧米の理論水準に触れ、「人種」にまつわる概念の理解に努める。</p>			
<p>授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等</p> <p>幅広い著者による人種やエスニシティ、レイシズムに関するさまざまな論文41篇を収録し、当該問題において英語圏での代表的なReaderになっている下記を輪読する。</p> <p>Les Back and John Solomos eds. <i>Theories of Race and Racism</i>, Routledge, 2000</p> <p>Part1 Origins and Transformations Michael Banton, Tzvetan Todorov, W.E.B.DuBois 論文ほか6篇</p> <p>Part2 Sociology, Race and Social Theory Robert Miles, Stuart Hall, David Theo Goldberg 論文ほか7篇</p> <p>Part3 Racism and anti-Semitism George L.Mosse, Zygmunt Bauman, Sander L.Gilman論文ほか5篇</p> <p>Part4 Colonialism, Race and the Other Franz Fanon, Ann L.Stoler, Homi K.Bhabha論文ほか6篇</p> <p>Part5 Feminism, Difference and Identity bell hooks, Avtar Brah, Ruth Frankenberg論文ほか7篇</p> <p>Part6 Changing Boundaries and Spaces Paul Gilroy, Kobena Mercer, Michael Keith, Slavoj Zizek論文ほか10篇</p> <p>受講者は、このReaderから各自の興味関心にしたがって担当論文を選択し、報告することが求められるので、開講時までに上記を入手しておくことが望ましい。輪読のペースは、受講を決定した学生の人数を勘案しながら検討する。</p>			
単位取得要件	文献についての翻訳 = 報告、議論への貢献等による授業内での総合評価		
備考			

BB

授業科目	スポーツ文化論 (Lecture of Sports Culture)		
担当教員	黄 順 姫	研究室	人社A415
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜16:00~18:00
学期曜時限	2学期 金4・5時限	授業対象学生	2~4年次
<p>授業の目標と概要・学生への要望</p> <p>グローバル化・格差化する現代社会においてスポーツを巡る文化現象を社会学的に分析する。</p>			
<p>授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等</p> <p>スポーツをする側・観戦する側の身体文化が、グローバル・グローカルの影響を受ける現代社会との関係性のなかで、どのように形成され変容されていくのかを理論的、実践的考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業においてスポーツに関する映画の鑑賞を通して考察し、各自がレポートを提出し討論する。 2. WBC,W杯サッカー大会、オリンピックなどのメガスポーツイベントを巡るスポーツ観戦学に関する研究論文や書物を輪読し、スポーツの社会学的見方の訓練を行って分析する力を身につける。 3. 体育教育で生成する身体、スポーツジムやクラブで商品化する「身体」消費、スポーツファッションなどに關する日本・韓国の比較研究の講義を通して、比較文化社会的視座と分析力を涵養する。 			
単位取得要件	レポート、発言など授業への積極的な参加が必須条件		
備考	最初の授業の時間に指示する。		